

ネット利用による意見・態度の〈分極化〉を検証する

—— 一般化順序ロジットモデルを用いた計量分析 ——

○大阪大学 辻 大介
大阪大学 齋藤僚介

1 目的 ネット上で集団極性化(group polarization)が容易に生じる可能性があることは、普及初期段階から問題視されてきた (Sunstein 2000)。たとえば、ある 이슈に賛成寄りの意見をもつ者は、ネット上でそれを支持する他者や情報に好んで接触し、そこから確証を得て賛成度をさらに強める。同様にして反対派もさらに反対度を強める。それによって、集団全体においては意見・態度の分布が賛否の両極に分化——分極化 (bi-polarization)——し、世論の分断や対立が深まる。そのような可能性である。こうした意見・態度の分極化をサーベイデータから分析するには、独立変数 (ネット利用) によって従属変数 (意見・態度) の分散や分布形がどう変化するかを照準しなくてはならない。分散・分布形の変化に照準した分析法としては、まずは分位点回帰(quantile regression)が挙げられようが (Hao & Naiman 2007, 石黒 2013)、従属変数の尺度間隔が十分に細かくなければ、分位点回帰による分極化の検証は困難であり、社会調査で一般的な 5 件法程度の設問を従属変数にしても実際上まず用をなさない。本報告では、それに代わる解析手法として一般化順序ロジットモデルの応用を提案し、実際のサーベイデータを用いた分析結果から、5 件法程度の従属変数の場合にも分極化に関する有意な効果を検出できることを示す。

2 方法 分析に用いるのは、2017 年 11 月 15～18 日に実施したウェブ質問紙調査のデータである (平成 28 年度電気通信普及財団研究調査助成による)。NTT コムリサーチおよび提携事業者の登録モニター16～64 歳を対象とし、4007 ケースの有効回答を得た。データ解析には Stata 15.1 を用い、一般化順序ロジットモデルによる推定は gologit2 コマンドで autofit オプションを指定して行なった (Williams 2006)。

3 結果 「外国人が日本に合法的に移住した場合は、日本人と同じ権利を持つべき」と思うかに対する 5 件法の回答 (「そう思う」～「そう思わない」) を従属変数とし、一般化順序ロジットモデルによって推定した結果が、右表である ($n=4007$; pseudo $R^2=.03$, $p<.001$)。ネット利用量は、「まあそう思う」(以下と「そう思う」とのカットポイント) においては正の係数値を、「あまりそう思わない」「そう思わない」においては負の係数値をそれぞれ有意に示している。このことは、ネットをよく利用するほど、移住外国人への権利付与について賛否が分かれる、すなわち分極化することを意味している。一方、テレビ視聴量と新聞講読量については、従属変数のすべてのカットポイントについて効果は均一であるという平行性の仮定は棄却されず (Wald 検定による)、両変数とも有意な正の係数値を示しており、分極化効果は認められない。当日の報告では、この他に、憲法 9 条改正に対する賛否などを従属変数とした分析結果もあわせて紹介したい。

(数値は非標準化係数)	まあそう 思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない
ネット利用量(対数)	.209**	.051	-.212***	-.332***
テレビ視聴量	.063***	.063***	.063***	.063***
新聞講読量	.040***	.040***	.040***	.040***
男性ダミー	.034	.034	.034	.034
年齢	-.027***	-.007**	.001	.000
教育年数	.032*	.032*	.032*	.032*
主観的経済状況	.066	.129***	.123***	.248***
政治関心	-.110*	.143***	.407***	.551***
自民党支持	.091	.049	-.447***	-.482***
立憲民主党支持	.523***	.523***	.523***	.523***
[切片]	-2.727***	-2.104***	-0.119	0.619

文献 Hao, L. & Naiman, D.Q., 2007, *Quantile Regression*, Sage. / 石黒格, 2013, 「社会心理学データに対する分位点回帰分析の適用: ネットワークサイズを例として」『社会心理学研究』29(1), pp.11-20. / Sunstein, C., 2000, Deliberative trouble? Why groups goes to extremes?, *Yale Law Journal*, 110(1), pp.71-119. / Williams, R., 2006, Generalized ordered logit/partial proportional odds models for ordinal dependent variables, *The Stata Journal*, 6(1), pp.58-82.